

ぶるす

四季の会・ユーザーズ・サービス

348号

発行人 浅沼 邦夫

拝啓 大寒の候、先生におかれましては、益々御健勝のことと存じます。

最近、高いものが売れるようになったといわれます。立春も近くなり、恵方巻きと言われる時期に東武池袋本店で、1本「1万2960円」と、過去最高価格で発売する。1/7日経MJによると、有名ブランド牛など高級食材を使用して節分需要を掘り起こす。独自の恵方巻きも多彩にそろえ、話題づくりにもつなげたい考えだ。

最高価格の商品は肉惣菜店「キッチンギモト」と組んだ「松阪牛ステーキと黒毛和牛ローストビーフの恵方巻き」(1万2960円)。長さ18センチ、直径12センチで、霜降り松阪牛サーロインステーキ約400グラムと黒毛和牛ローストビーフ約200グラムにベビーリーフを加えて巻いた。昨年の最高額商品は1万1550円だった。今月8～25日の期間に受けた予約分のみ販売する。

百貨店各社では昨年12月、都心を中心におせちやクリスマスケーキといった季節ならではの商品の販売が好調に推移し、年末商戦を盛り上げた。東武百貨店でも3万2400円とこれまでで最高額のクリスマスケーキが完売したほか、おせちは売り上げ・客単価ともに前年を上回ったという。年間行事にあわせ、高価格でもいつもと違う食事を楽しみたいという需要があるとみているのです。

国民資産9294兆円。ふだん関心を持たないですね。日本国も借金が1000兆円を超え、将来はどうなるの！とよくいわれます。こんなに「国富」があると驚きません。1/17読売によると、内閣府が16日発表した2013年度の国民経済計算確報によると、13年末に国や企業、個人などが保有する土地や建物、株式など「国民資産」の残高は、前年末比7.2%増の9294兆円だった。比較可能な1994年以降、過去最高を更新した。株価の上昇などで金融資産が増加したためだ。

一方、国民資産から負債を差し引いた「国

富」(国全体の富＝正味資産)は、13年末時点で同2.1%増の3048兆円と、6年ぶりに増加した。円安の進行で対外純資産が増えたほか、建物や設備などの固定資産の時価が上がったとのことだ。

「宝の山」あり、再起へ！ 宝は足元にあり

平成27年1月3日の正月の毎日新聞に、2007年に「自治体倒産」をした北海道夕張市のことが書かれていた。この正月に明るい素晴らしい話でした。

「炭鉱時代の負の遺産が『宝の山』になると分かったのは、たまたまでした」。北海道夕張市の鈴木直道市長(33)は話した。市内には、石炭を採掘した際に出る石くずを山積みにした「ズリ山」が66カ所ある。自然発火や土砂崩れの危険があるが、そのズリ山で一昨年春に起きた大規模な崩落が、チャンスにつながったのです。

「周囲の河川をふさいで鉄砲水を誘発するリスクが高まった。災害対策費に5億円かかることが分かった」(鈴木市長)。しかし、業者がズリ山の石を分析すると、3割程度が石炭として再利用できることが判明。高松地区のズリ山ができた1950年ごろは、選別技術が未熟だったためだ。量は同地区だけで2200万立方メートルで、東京ドーム約20杯分。売り上げは10年間で10億円が見込まれ、地元雇用の増加も期待される。市は今夏、石炭を選別する工場の運用開始を見込む。

今、夕張市に「炭鉱の街」として繁栄した面影は見当たらない。「あそこは飲み屋街、ここには映画館があった」。元炭鉱マンで、石炭博物館でガイド役を務めていた山村光男さん(80)は遠くを見つめた。昨秋亡くなった高倉健さん主演の映画「幸福の黄色いハンカチ」のロケ地としても知られるが、現在は廃墟や炭鉱住宅が雪に埋もれる。

1962年の原油輸入自由化を機に国のエネルギー政策は石炭から石油に転換され、炭鉱は次々に閉山した。市は観光事業にかじを切ったが、過大投資と放漫経営がたたりに、2007年に自治体倒産に当たる「財政再建団体」に転落した。

人口は9700人で、ピーク時(1960年)の12分の1。高齢化率は45.6%と全国の市では最も高く15歳未満の人口は6.1%(ともに2013年時点。「特殊ケース」にも見えるが、夕張の人口構成は、国立社会保障・人口問題研究所が推計する50年後の日本の姿と酷似する。

市の借金は現在約285億円。山村さんは「仕事はなくなり、公共料金も値上がりし、街から人が消えた」と振り返る。市は分散する居住者を中心部に集める街を目指し、200戸の移転に成功したのです。

再建築として注目されている動きがもう一つ。炭鉱部分に、市内のエネルギー消費量の1500年分に相当する炭層メタンが眠っていることも分かり、市は国の補助金などを活用して来年度の試掘開始を目指す。

北海道大工学部の大賀光太郎助教(資源システム)は「エネルギーの地産地消で安価な電気やガスを供給できれば、夕張への企業進出の誘い水になる」と話す。

国の推計では、夕張の人口は2035年にはさらに半減するとみられる。鈴木市長は「人口が減ったとしても『負け』ではない。市民が幸福を感じることができる街づくりを目指したい」と話す。もしかしたら他の自治体の(再生の)ヒントになるのかもしれないのです。

会社を発展させる 決算の「ツボ」を知ろう

社長は会社を発展させる「コツ」を知っています。税理士は決算書の「ツボ」を知っています。社長とのコミュニケーション、大事な「ツボ」です。「ツボ」の話をするとうわかりやすいのです。「ツボ」は数字だけではわかりません。「決算診断」の中の「数値や感性や知恵」の中から出てきます。社長の「コツ」と税理士の「ツボ」が「企業と、会計事務所の発展」のポイントになるのです。

長生きのツボ健康法です。税理士のツボ療法だと思えば面白く、わかりやすいのです。会計事務所の顧客満足「3方よし」の理念形成になります。「事務所よし、顧客よし、世間よし」となり、「つながる力」になってきます。顧客のリピーターとなり、新規拡大につながっていくのです。

健康には「自分の体を自分で治す」が基本ですね。社長が会社をよくするには、「社長の目でみる決算書」が何よりも大事です。それには会計事務所と、社長の立場で決算書の報告解説をすることです。決算診断の「ツボ」がよくわかります。今回から「ツボ」を連載します。是非読んでみて下さい。「決算診断提案書」を参考にしながら見ているとよくわかります。

「総合診断」の「総合得点」。「前回〇〇点」「今回〇〇点」があります。この得点は銀行が御社を格付けしている点数に似ているのです。この「点数」で、「関心のない社長」はいないのです。この得点はどのようにつくられているのか!!「6要素診断」です。「ツボ」がここにあるのです。「6要素診断」は、「収益性、生産性、資金性、安定性、健全性、成長性」です。サービス業、建設業等40業態に分けられています。

「収益性」は大事。付加価値率等5つの分析です。「収益性」は、企業はもともと「利益の獲得」を目指して作られたものです。会社の総合的な力の強さ、経営のうまさによって、獲得される・・・。「社長に聞くほどいい知恵なし」。そうです!/社長に聞くと真剣に語ってくれます。

この一年間の成功や失敗など懸命な努力を社長は語ります。「付加価値」は売上高から変動費を差し引いたもの、「粗利益」とか「限界利益」とも呼ばれます。利益とは何か!「顧客満足と感動の結果」が売上も増え、利益も増えるのです。ここが「ツボ」です。